

極
樂
通
卷
13

UBUD



U • B • U • D I • N • D • A • H



photo:E. Sugawara

牛である。バリの牛はどうしてだかとても鹿に似ている。毛並みはつやつやしていて美しいし、大きな目などはどう見ても合の子のように思う。父親が牛なのか鹿なのかは定かではない。(実際のところはどうだか知らない)

バリはヒンドゥー教だがインドのものとは違う。だから牛も神格化されるほど大切にされているわけではない。もちろん食べたりもするがミルクはあまり飲まれない。乳製品も作られたりしない。冷蔵庫などが普及していないからであろう。

農耕時に働くのは大抵がこの牛ではなくて水牛である。したがってこの牛は結構暇そうにしていたりする。近づくと暇潰しに延々と続くにらめっこを挑んできたりする。私は結構これが好きだったりする。

勝手に鹿牛と呼んでいるが、馬に似た鹿がいなくてよかったと思う。

堀 祐一

Contents

● Kabar Baru Berita Lama にせさつ出回る !!-----	4
Rumah Sehat-----	5
● Showbai Hanjow 商売半畳? 繁盛?-----	6
● C・O・L・U・M・N UBUD の年末年始-----	8
● UBUD よろず百科 リトル・東京-----	10
● Bagaimana Caranya? [4] ウパチャラに招かれた時の手みやげは?-----	12
● Dari Lombok ロンボックから-----	13
● Ubud Illust Map'96 イラストマップ '96-----	14
● BINTANG/5 ビンタン涅槃楽 [5]-----	16
● Apa Itu? これなあ〜んだ?-----	21
● Peliharalah Lingkungan UBUD Ubud の環境を考える-----	21
● TOKO BEST 店 Gnung Sari-----	22
● Warung 味な店 BALI BUDDHA-----	22
● Pondok Manis 私の常宿 Nyoman Astana's Bungalows-----	23
● Pesan & Kesan 旅人一声-----	23
● Berita Terbaru その他のニュース-----	24
● Orang-orang Ubud うぶんな人々-----	25
● Studio スタジオ一覧-----	26
● Pengumuman でんごんぼん-----	26

○表紙のことば○

名古屋市在住の鈴木美子さん。

ダンナさまは、写真と絵でご活躍の蘭香津美さんです。

有美子さんとは大昔(?)の、お互い会社にお勤めしていた頃からの知り合いです。

ネコ好きで、とってもやさしくかわいい有美子さん、今回はチリ風のバリニーズ・Boy&Girlを描いてくれました。

どうもありがとう。

極通 UBUD スタッフ/Y



4020

編集室便り

●入稿に関するお願い

編集部では、Macintosh による DTP 作業で版下を作成しています。原稿をお寄せくださる方で Text Data で入稿可能な方は、以下の方法でお願いします。

Macintosh フォーマットの FD (Text Data)

Dos フォーマット (2DD-720KB) の FD (Text Data)

E-Mail :

MHC03202 : 菅原 (NiftyServe)

GCB01162 : 堀 (NiftyServe)

hori@potomak.com (Internet)

eriko@potomak.com (Internet)

※詳細は、裏表紙にある日本連絡先事務所までお問い合わせください。

特派員報告 にせさつ出回る !!

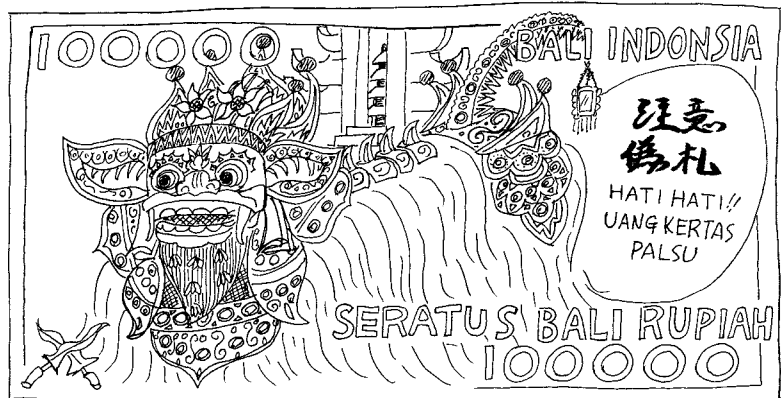
“にせさつ”と言っても“偽警察”のことではありません。確かにインドネシアでは、公務員の制服がそのへんで手軽に購入できるということで“偽警察”や“偽入国官”がいます。これにも十分に気をつけなければいけません、今回の事件は真正正銘の贋札事件です。それでは、この事件の全貌を明らかにすることにいたしましょう。

某月某日。UBUD 長期滞在者のO嬢は、いつものようにいつものところへマネー・チェンジにでかけました。壱万円を両替したところ、二万ルピア札ばかりでかえってきました。ご存じのように、バリは物価の安いところ、そして彼女は質素に暮らしている。こんな大きなお金をもらっては支払いの時に困ってしまう。ということで彼女は一万ルピア札に交換してもらうことにしました。それが今回の事件の始まりであります。事件というほど大げさなものではありませんが、贋札を手にするという経験をした人は少ないと思います。その交換した一万ルピア札の中になんと、贋札が一枚混じっていたのです。よ〜く見れば紙も厚く、色も悪く、印刷もずれているのですが、たくさんの札の中に混じっていると見逃してしまうほどの出来ばえ。店を出てから気が付いたO嬢は、さっそく店に戻ったのですが、時すでに遅く、店の女主人は「そんなもの知らないよ」と交換はしてくれません。もうこうなったら、これは記念で取っておくしかない。と彼女は考えをなおし、宿に帰ったそうです。それにしても一万ルピア、これは日本円にして500円弱、ひょっとすると贋札を作るほうがお金がかかるのではないかと思うのですが…。ある筋からの情報によると、ジャワ島のスラバヤに贋札作りの大きなシンジゲートがあり、各国のお金を作っているといっています。それに

してもインドネシアのルピアでは割りにあわないのではないのでしょうか？

2年ほど前、5万ルピア札が新たに出回った頃、こんな贋札事件があったのを聞いたことがあります。ところはマス村の村外れ。細々とワルン営んでいるおじいさんがいました。ある日一人の若者が買物をしたあと、5万ルピア札を出して、おつりを催促しました。おじいさんは新聞や村人から噂には聞いてはいるが、本物の5万ルピア札をまだ見たことがありません。おじいさんははっきり本物の札と信じてお釣りをだしました。しかし、その札は絵の具で書いたお粗末な贋札だったというわけです。なんと可哀相なおじいさんなんでしょう。贋札はよほどカラー・コピーのほうが出来がよいそうです。お〜っと、いい話を聞いたといって、実行しないでくださいよ。贋札を作ることは勿論イケナイことですが、贋札を貰うこともあまり気分のよいものではありません。

今までは、マス村の可哀相なおじいさんのちょっとユーモアのある贋札の話でしたが、今回の贋札事件は組織的な本格的なものと考えられます、となると贋札が大量に出回っている可能性がありますので十分に気をつけましょう。



Rumah Sehat

Rumah Sehat 直訳すると“健康な家”…？ん？どこかで見たことのある単語…？そうです、あなたの泊まっているホーム・ステイの門柱に貼られているブルーのプレートに書かれている文字です。それぞれの家に貼られている Rumah Sehat のプレートは Tipe A、Tipe B、Tipe C と3種類に分かれている。いったいこりゃあ何のランク付け？ 病人がいる家とない家の識別？…と長いこと疑問に思っていた極通勤材班。やっとこのたび真相が明らかになりました。

これは、インドネシア政府が主催する各家庭の衛生状態のランク付けだったのです。

●カマル・マンディ（トイレ、水浴び場）の有無と衛生状態

●ゴミ収集場所の有無とその状況

●台所の衛生状態

●花壇の有無（さらにそこに薬草やとうがらしなどが植えてあればポイントは高いらしい）

などがチェックされます。ランク付けの基準は、県ごとに選出

された審査員（医者など）が突然現われて、ざっと見ていく程度のもので、そんなにシビアなものではないようです。ランクは、A = とてもよい、B = よい、C = ふつうと分けられ、たとえ Tipe C とランク付けられても嘆くことはないようです。

そしてその目的は、インドネシア国民の生活水準の向上と平均化だそうです。全国規模で毎年行なわれる Lomba Desa (村コンテスト) でもこの Rumah Sehat のポイントは大きく評価され、去年 '95 の Lomba Desa ではなんと我らの地元 Ubud 村が輝く優秀賞をインドネシア政府から受賞しました。

2月に行なわれた Ubud 村主催のバンジャール単位でのコンテストでは、Br: テガランタンが最優秀に選ばれ、村から褒美のセメントが数袋送られました。セメントは Br: テガランタンの公共施設のために利用されたそうです。

ギアニャールの現県長の行動力と進歩的な考え

方は、もうすっかり有名となっています。そして県では、現在ギアニャール東部地区の商業開発計画として、企業、ホテル、レストランなどの誘致を積極的に行なっています。Ubud を中心とした西部は、ツーリズムのおかげで県民の生活水準は大きく向上しました。しかし東部はまだまだというわけで、県では家にかかる税金 (Pajak Rumah) を Ubud 地区の六分の一にしたり、土地の価格を超安値にしたり、全国村コンテストの県代表をわざと東部地区にあてたりと、開発に必死です。今まで川でマンディしていればよかった住民の生活は、カマル・マンディをすることで何十万ルピアという出費がかかったり、バンジャールの会議で、村の美化のために早朝の草刈りやドブ掃除などが決められれば、各家からはゴトン・ロロンとして人員参加が義務づけられたりします。それが住民にとって良いことなのか、それともたいへんなことなのかは、我々ツーリストにはわかりません。インドネシアの村々が清潔で綺麗になっていくことは、とても良いことだと思います。そしてそればかりではなく、医療施設や福祉施設などが充実されることも多く望まれます。

余談ですが、Rumah Sehat のプレートのほかに、もう一つ黒いプレートが貼られているのをご存じですか。それは家長の名前と出生年、職業、そしてバンジャールの参加番号。男何人、女何人、合計人数などが記載されている家族構成表示のプレートです。各バンジャールによって内容が異なったり、貼られていないこともあります。バリ全域で見かけるこのプレート、違いを見つけるのも楽しいかもしれません。おもしろいことに家長が Penari (踊り手) や Penabuh (ガムラン奏者) であっても、職業は Petani (農業) と書かれています。そんなところをみると世間から認められている職業とそうでないものがあるのかもしれませんが、今回はちょっとためになる Rumah Sehat 取材でした。



Showbai Hanjow!



商売半畳？繁盛？

商売繁盛とは商売半畳とも書く。半畳もあれば商売ができ、繁盛するというわけである。半畳とは畳の半分、つまり $90\text{cm} \times 90\text{cm} = 1\text{平方m}$ である。人がひとりが立ったり、坐ったりすることのできる広さである。店がなくても物を“見せ”ることができれば、人ひとり分のスペース、半畳もあれば商売ができるというわけである。これが商売の原点でもある。バリには、この商売半畳をいたる所で目にする。たとえば物売りである。とは言っても、どの物売りもけっして繁盛しているようには見えない。しかし、それでも商売半畳には変わりはない。そしてそれらは、おおいに便利な商品から、こんなものまで「売り歩くの？」と思わず苦笑してしまう物まで多種多様である。

日本もその昔は、家にいながらにしていろいろな物が買い揃えられた。富山の薬売りなどは訪問販売の元祖である。夕方の豆腐売りの笛の音。金魚売り、風鈴売りなどは夏の風物詩である。そして、竿竹売り、コーモリガサの張り替え、焼き芋屋の呼び声な



どは、落語のネタになるほど風情のあるものであった。

クタ、サヌールなどのリゾート地のビーチには、おなじみの三つ編み、マッサージ、マニキュアおばさんが出沒する。そしてビーチならではのゴザ、日傘のレンタル、サングラス売りがいる。また土産屋、たばこ屋、飲み物屋の物売りが行き来し便利でもある。

キンタマーニや観光地の駐車場では、木彫りや笛をバスの窓越しに売りにくる。こんなことで売れるのかと、他人事ながら心配になってしまう。こんな時の子供の物売りには少し困惑してしまう。



ところ変わってUBUDでは。道端に座り込んで、ボーとしているときまざまな物売りが通り過ぎるのに気が付く。これはまさにパフォーマンスを見ているようでもある。これもUBUD滞在中を楽しむ一つの方法である。

いきなり驚かされたのは、木製ベッドを一台かついで通り過ぎる力自慢の男。ベッドが簡単に売れるとは思われないが、こんな大きなものを一日中かついで売り歩いているのだろうか。そして偶然なのか、そのうしろからは、ベッドのマットをかついだ物売りが通る。さらにまた、そのうしろからは親切にもマクラ売りまでが通り過ぎて行く。これで寝具のワンセットがいっちょう上がりである。

天秤棒に机と椅子のセットをかついでるおじさん。これも遠くの村から歩いて売りにくるようだ。鶏かごを20ケほど天秤棒で運ぶおじさん。暑い陽射しの中、暑苦しいヌイグルミを体中にいっぱい

ぶらさげて歩く男。金物や靴、傘の修繕屋さん。自転車でこれでもかというほど物をぶらさげている、おもちゃ屋と雑貨屋。サルンや化粧品などの行商人は庭先まで入って来て、雑談をしながら商品の交渉をする。キンタマーニ犬の子犬一匹を抱えて歩いているもの。そのほかにも、風船、ジャジャン（バリのお菓子）、鳥、ジャム（インドネシアの漢方薬）、石ウス、ツボ、数えあげたら限りがない。

UBUDにも数年前からミニ・スーパーができ便利になった。そして今では中規模のスーパー・マーケットもできた。半畳の商売はこれからはもうやっていけない時代になってしまうのだろうか、それとも少し工夫すれば、まだまだ商売は半畳でもやっていけるのだろうか。ツーリストの意見を言わせてもらえば、この商売半畳はバリの風物として残ってほしいものである。

かなり季節はずれな話題ではありますが、今年の年末または来年のお正月をUBUDで迎えようとお考えのあなたに、UBUDの年末年始とはいったいどの様なものか？1995年の年末から1996年のお正月にかけて私が体験した事実に基づいてご紹介します。

UBUDの年末年始

文：小境和恵
イラスト：伊藤ちづる

●UBUDのクリスマス

本来バリの暦とは関係のないクリスマス。とはいえ、デンバサールの大きなデパートにはハデな(?)がセンスいまいちの包装紙に包まれたクリスマスギフトらしきモノが並び街がクリスマスしてるらしいし、クタやヌサドゥアのレストランやリゾートホテルでは、客のためにスペシャルディナーを用意して、有名な歌手や舞踊団を呼び大規模なクリスマスパーティが催されているとも聞く。それと、この時期クタあたりに目立って多いのがラッパ売りの姿だ。これは赤や青、緑色の紙で作った三角形のラッパに、金色のビニールテープで装飾を施したとってもチープなもので、それを自転車にこぼれ落ちそうなほど積み上げ”プ〜プ〜”鳴らしながら売り回る。そして、その姿はクリスマスを過ぎても消えることなく、お正月過ぎ10〜15日くらいまで積極的(?)いや根気よく売ってたりする。そんな街のクリスマスとは対照的に、普段と何ら変わらないのがUBUDのクリスマス。街にはクリスマスソングが流れ、人々は心はずませるナンテことは全くない。ただJL.Raya, JL.Monkey Forest, JL.Hanomanといった通りに面したレストランや飲み屋には、飾り気が少なく光りも乏しいクリスマスツリーが秘かに”クリスマスなんだゾ”と囁く程度。さすがヒンドゥーの島といった感じはUBUDならではの。

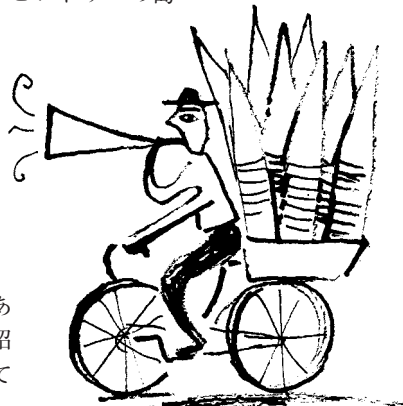
して、昨年の私のクリスマスイブは？という、皆さんご存知・自称ガンタン男ことSai2Barのランドゥンの誕生日パーティ(それを聞いた時は”誕生日までカッコつけやがって”)と思って身分証明書を確認したところ本当だった)に私と伊藤ちづる(影武者にあるUBUDマップの作者)の二人は招待され、飲めや歌えの大騒ぎ!そして



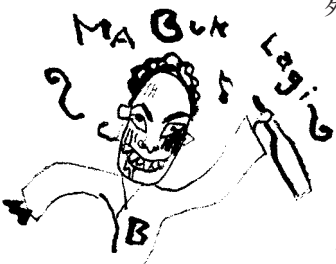
私は”大マボ”になり記憶を失い、気づいたら次の日ベッドの上で寝ていたという始末。まあ、いずれにせよ私の場合、クリスマスに日本にいたとしても友達と大酒飲んでマボになるわけなので、日本のクリスマスもUBUDのクリスマスも大差はないってところ。

●お年越しはバザールで

過去4年間、必ずUBUDでお正月を迎えている私から年始を迎えるにあたってのおすすめスポットをひとつ。それは、UBUDの青年たち(たまに小学生くらいの子供もいる)も外国人観光客も入り乱れてのDISSCO&BAR通称バザールである。このバザールと呼ばれるナゾの催し物の仕掛け人は各バンジャールの青年団。各バンジャールの資金集めを目的として開催され、バザールの収益は各バンジャールのお寺やバレ・バンジャールの修復などに使われる。営利目的の観光イベントとは違う私の最も愛すべきイベントである。これは年末年始に限らず、不定期に各バンジャールのバレ・バンジャールで開かれるが、特に盛り上がりみせるのは、やはり12月31日の夜から元旦の明け方まで、プリサレン横のワンテランで開催されるバザールだ。しかし盛り上がり方はいっても、その盛り上がり方のダサさといったらこの上ない。DISSCOなんてのは名ばかりで、とにかく腰をフリフリするだけで音楽なんて殆ど無視。みんな一生懸命カッコつけてるつもりだと



思うので、こんなふうに言うと UBUD のみんなに申し訳ないかもしれないが、私としてはそのダサさがたまらなく好きだ。最近クタのオシャレな DISSCO に行くと、なぜか納得できない程このバザールに魅せられてしまった。だから4年も、しかもわざわざ年末年始に UBUD へ行くのである。それとバザールのもうひとつの面白さは、普段お酒を飲み慣れてない UBUD の若者たちが大酒飲んでメチャクチャ踊ればマボになるのは当然。その結果、もの凄い汚臭とともにとても用をたせるような状態ではなくなる”ゲロの湖トイレ”ができ上がり。時には、大マボになり仲間から袋叩きにされてるヤツ。時には、飲み過ぎて冷水状態になり人知れずどこかへ運ばれて行くヤツ。そしてある時は、口から何やら赤い液体を流してると思ったら、グラスを食べて血を流しながらジョイナーの如（もの凄い速さで）JL.Raya を走り出すヤツなんてのも発生。ああそういえば過去、酔ってガソリン飲んじゃったヤツもいたなあ…そんな、妙なヤツでいっぱいなのザン場所がバザールである。といってもこれは去年（？）一昨年（？）までの話で、今年からは



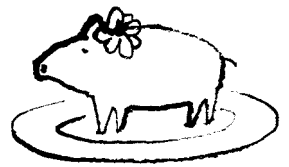
ダンスフロアが縮小され、ビールを飲むのにもグラスが無くなって、小ビンのピンビールをラッパ飲みするスタイルに変わり、トイレも美しく（？）いや普通になった。参加した誰もが気持ちよく、普通に楽しめるようになった

という点では喜ぶべきことかもしれないが、大いにハメはずして私を楽しませてくれる人が少なくなってしまったのが非常に寂しい。

●ラワール、バビグリンぜめのハリラヤ、日く奥深し

1995年～1996年、この年末年始とヒンドゥー教最大のハリラヤ「ガルンガン」(12/27)と「クニンガン」(1/6)が重なった。これにより、いつも何もない UBUD の年末年始がさらに○をかけて何もなくなった。両日は、ヒンドゥー教徒が経営する店はもちろん、それ以外の店も閉ることが多い。よってこの日、ビギナーの場合は食生活に困ることも予想される。が、それとは逆にバリ人の友達がいる人は“家にメシを食いに来い”と熱心に誘われ、ヘタすると朝から晩までラワール、バビグリン“ずくし”の食生活を送ることになる。中でもラワールに限っては、午前中にしか味わえないとされる生のラワールを食べさせたいと考えるのがバリ人の傾向のようだ。それは、バリ人いわく日本料理に例えると“刺身”らしい。活きのいい刺身は美味しく、それはめったに食べれない贅沢なんだ！という意味なんだろうか？すると、活きのいい豚とはいったい？

と少々気がかりな点はあるが、私の場合ラワールはもちろんバリ料理は何でも大好きなので全然問題は無いと高をくくっていた。だが、一日中となると問題であっ

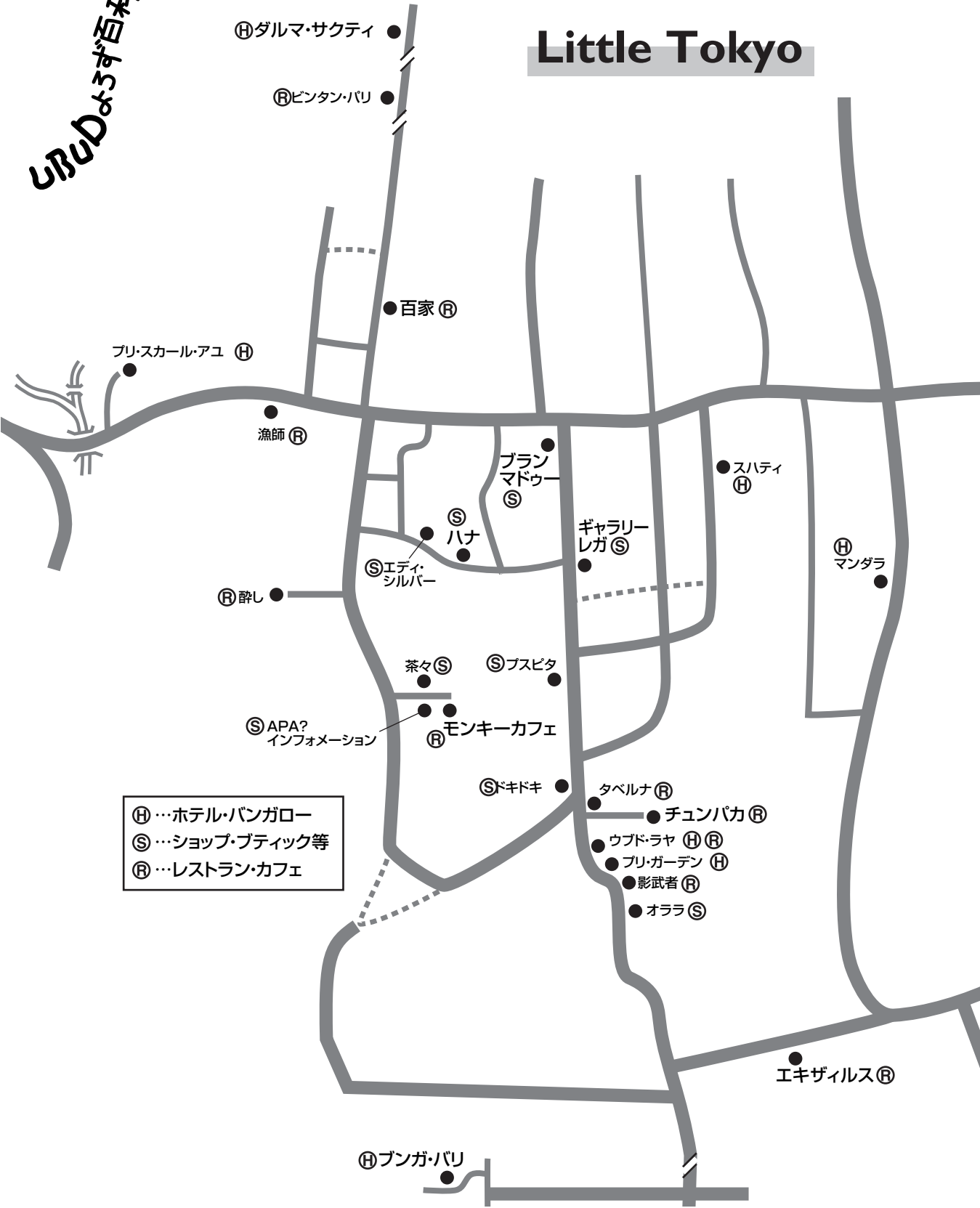


た。“いくら寿司が好きでも朝から晩まで寿司じゃ飽きる”ってなもんで、たまにはシンプルであっさりしたサユールも食べたいナとか、ミ～なんかもいいナと思ったりする。であるからして、この両日バリ人宅を訪問するなら、昼または夕方くらいがおすすめである。して、食生活はさておき、このハリラヤの本来の意味は？という、ガイドブックによれば「ガルンガン」は神々と祖先の霊を地上に迎える日。その10日後「クニンガン」は神々と祖霊を天界へ送り出す日。などと書かれているが、果してそれは真実なのか？私はその真相を解明すべく UBUD の友達に話を聞いた。すると、ガイドブックに書かれていることは遠くかけ離れた言葉が返ってきた。ある人は「ガルンガン」を様々な物語で戦いに勝利した勝利者のための祭日。ある人は、ダルマとアダルマがPerang（戦い）ダルマが勝利したことを記念した祭日だと言うのだ。そこで良くわからなかったのが「ダルマ」という言葉だ。何かの本でヒンドゥー＝ダルマ（ヒンドゥー教）と書いてあったような気はするが、私はよく理解していない。辞書によると、ダルマとは法則とか生活の綱領という意味で、私が尋ねた友達の話しでは、簡単に言うとダルマとは良いアダルマとは良くないということらしい。これを勝手に集約すると“人間の内面”善＝ダルマ、悪＝アダルマ。バロンとランダが繰り広げる永遠の闘いにもあるように、善悪の調和の上に世界が成り立つというヒンドゥーの宇宙観を象徴した祭日。そして、どこかでみんなダルマ（善）は勝つと信じているのだろうと、私は解釈することにした。で「クニンガン」は？という、ガルンガンの意味を聞いただけで頭の中がグルグルになり結局聞かずじまい。まあ、とにかく「ガルンガン」も「クニンガン」も簡単には説明できない深～い深～い意味があるようだ。

何が真相解明なんだか…トホホ



Little Tokyo



- (H) …ホテル・バンガロー
- (S) …ショップ・ブティック等
- (R) …レストラン・カフェ



UBUD よろず百科 リトル・東京

UBUD は 19 世紀の始め頃から、バリに魅せられた多くの外国人が住み着いていました。そしてその魅力は衰えず人気は年とともに急上昇していきます。今では、欧米人のみならず、日本人の長期滞在者も増え、30 人は下らないだろうと言われています。インドネシア人と結婚して住んでいる人、カルチャーを学んでいる人、ビジネスをしている人、そして何もしていない人などなど、あまりの多さで確認できないほどです。もっとも確認するつもりもありませんが。そんなこんなで、今回は日本人の関係するお店を紹介することにしました。といっても都合によって掲載できないお店も多いので、結果的には、仲間うちのお店紹介になってしまったことをお許しください。是非ともご利用くださって、ご支援ご指導くださるようお願いいたします。



●アンティーク・ショップ・ハナ

実は近いうちにハナを閉め、あらたに UBUD でバンガローを経営の予定。乞うご期待！

●モンキー・カフェ

奥さんが出産準備のため、一時休業中。がんばって早く再 OPEN してほしいですね。

●ブンガ・バリ・バンガロー

静か～なロケーションでの～んびりしたい方に。出来立てホヤホヤです。



●ダルマ・サクティ・バンガロー

UBUD の中心から約 2.5Km。静かで景色のよい宿です。天気の良い日はクタのビーチまでが望めます。オーナーは環境問題のエキスパート。



●ジャパニーズ・レストラン 百屋 (MOMOYA)

この前、1F を改装して、居酒屋風に変身。カウンターで日本酒もいいし、お酒のあとのラーメンや冷やし中華もイケます。モモタローくんも大きくなりました。



●ブティック・ブラン・マドゥ

小さなブティックだけど、最近オリジナルの絞り染めに挑戦。スカーフ、T シャツなど、見慣れたはずの絞りの柄がなぜか新鮮。



●レガ・ギャラリー

こじんまりしたきれいなギャラリー。店内には地元のアーティストから外国人アーティストまで。ユニークな作品が並ぶ。絵もチョイスされていて、安心して買える。



●カフェ・チュンパカ

自慢のドリップ・コーヒーとチーズケーキに加えて、カレーライスが評判。手作りカレーのおいしさは思わずおかわりをしたくなる。2F でのんびり読書でもどうぞ。



●カフェ&バー・エキザイルス

おしゃれできれいなカフェ&バー。本格派イタリアンのメニューも充実。なによりもおいしいカクテルが夜遅くまで楽しめるのがいい。UBUD ではめずらしい大人のデートスポットです。

Bagaimana Caranya?



ウパチャラに招かれた時の手みやげは？

95年版では、正装とマナーのHOW TOシリーズでした。今年も知っておくと便利なことをいろいろ、ご紹介したいと思います。

今回は、バリ人の家庭でのいろいろなウパチャラ（儀式）にあなたが招かれた時、どんな贈り物、手みやげを持参したらよいかというHOW TOです。バリ人はお祝いのウパチャラがあると、顔見知りの外国人にも気軽に声を掛けて招待してくれます。中には、知り合いの家でもないのに、どこからか情報を聞き付けて勝手に入り込んで見学してしまうツーリストもいます。バリ人はそんなツーリストがタンクトップとショートパンツ姿で登場しようが、写真やビデオを撮りまくろうが、いっこうに気にしないように見受けられます。しかし、バリ人は心の中に「ツーリストだからしょうがない」というあきらめや、「わざわざ注意するより無視した方がよい」というやさしい(?)考えがあるのではないのでしょうか。BALIを愛する極通読者の皆さんは、そんなふうにはバリ人に思われるのは、ちょっとさみしいですね。そこで!! 大切なウパチャラを快く見学させてくれ、お祝いのバリ料理まで、ご馳走してくれる彼らにせめて地元の人達と同じような贈り物を持参して、感謝の意を表しましょう。もしあなたが少しばかりRichな日本人だとしたら、仲のよい家族のウパチャラのために、お金を包んでいくのもよいかもしれません。しかし日本の常識と同じで包むお金が少なすぎたり、お金を裸で渡すことは失礼になります。たとえば一万〜二万ルピアのお金なら品物にした方がよいと思います。地元の人も、お金を渡すのは家族や親戚など身内に限られるようです。

さて、そこで贈り物はどんなものが喜ばれるかというところ…。ざっとウパチャラ別書き出してみました。

◆ Upacara Pernikahan (結婚式)

お米: 2Kg、バナナ: 大きめ一房、線香: たくさん、バリコーヒー: 半〜1Kg、砂糖 1Kg。地元の人はこの物をお盆につめて頭にのせて参上します。それに加えてティー・カップのセットやグラスのセット(いずれも箱入り)、クバヤの生地やサルン、などをギンギラの包装紙に包んで持っていくことが多いようです。

裏話ですが、カップやグラスのセットは結構使い回ししているらしいです。タバコ(一番ポピュラーなのはGudang Garamの12本入り、フィルターと呼ばれているもの)をワンカートンなんていうのもよいかもしれませんが。私達が持っていくとしたら、コーヒー+砂糖+タバコとか、コーヒー+砂糖+サルンとかが無難でしょう。線香やグラスのセットを組合せてもOK。

◆ Odalan Merajan (家寺のオダラン)

◆ Upacara Potong Gigi(歯を削る=成人式)

◆ Upacara Otonan (赤ちゃんの儀式)

この三つは、結婚式のように盛大ではないけれど、それぞれの家庭でラワールをつくり、友達を呼び合います。これらのウパチャラもやはりコーヒー+砂糖+タバコでしょう。赤ちゃんの儀式ならベビー服を加えても喜ばれます。

◆ Upacara Pitra Yadnya (お葬式)

地元の人には、米、砂糖、線香などに加えて白い布(遺体のために大量に使います)を数メートル持っていきますが、私達はやはりコーヒーやタバコなどが無難だと思います。

以上、ざっとこんな感じでしょうか。それぞれ時と場合によるので、できれば身近なバリ人に相談してみてください。とにかく、バンジャールの人々や友人などがドォーッと訪問するこれらのウパチャラには、もてなしのためのコーヒーとタバコは昔から欠かせないものなようで、こういうものだったらいくら貰っても喜ばれるはず。そしてお祝いの贈り物は、あなたと当のバリ人との間柄によるので、ここに書かれたものでなければならぬということは全くありません。知り合いのお金持ちのバリ人A氏は、甥の結婚式のために豚3匹、あひる10匹を贈った(料理用ですのもちろん事前に)そうです。重要なのはハートですものね。

「何を持っていけばよいのか困っちゃう」人のために、今回のHOW TOが参考になれば幸いです。

P.S. もちろんウパチャラの当日は、ちゃんとふさわしい正装でキメましょうね。

Lombok DARI JEPANG

小田 蘭丸

バリ島の隣、ロンボク島にもクタ海岸がある。5年前から一度行ってみたいと思っていたところだ。今回はプラマのシャトルバスに揺られて出掛けることにした。UBUDからパダンバイ港までバス、パダンバイ港からはフェリーでロンボクのレンバル港へ。シャトルバスは一度マタラムにあるプラマのオフィスに寄り、客をスングギ、ギリ諸島、クタ方面のバスにふり分ける。クタへは、マタラムからプラヤの街を抜け南下する。全行程約8時間の旅である。

ロンボク島の南部は、荒涼としたサバンナに奇怪な丘が点在しているというイメージを持っていた私は、バリに滞在すると決める以前は、そんなところでトライアル車を走らせる生活を夢見ていた。来てみると荒れた土地には違いないが、そんなダイナミックなものではなかった。

クタの村に入り、四つ角を左に折れると海岸線に平行して路肩の朽ちたアスファルトの一本道が続く。右手に海岸、左手にはバンガローが点在している。その一軒の Segara Anak にプラマのオフィスはあった。15、6才の少年がバンガローの客引きにくるが、彼らの世話にならずにバンガローは簡単に探せる。バンガローは一軒一軒が広い敷地を持っていて、レストランを併設しているところが多い。部屋はいたって質素で、UBUDのバンガローを想像すると雲泥の差である。

海岸はリアス式で入江になっている。クタの海岸はくろぶしまで埋まってしまう、白いパウダー状の砂であったが、近くの海岸の砂は2mmほどの豆粒状の砂であった。近くには未開発の海岸が無数にあり、どの海岸の水も限りなく透明に近いブルーで、すこぶる美しい。

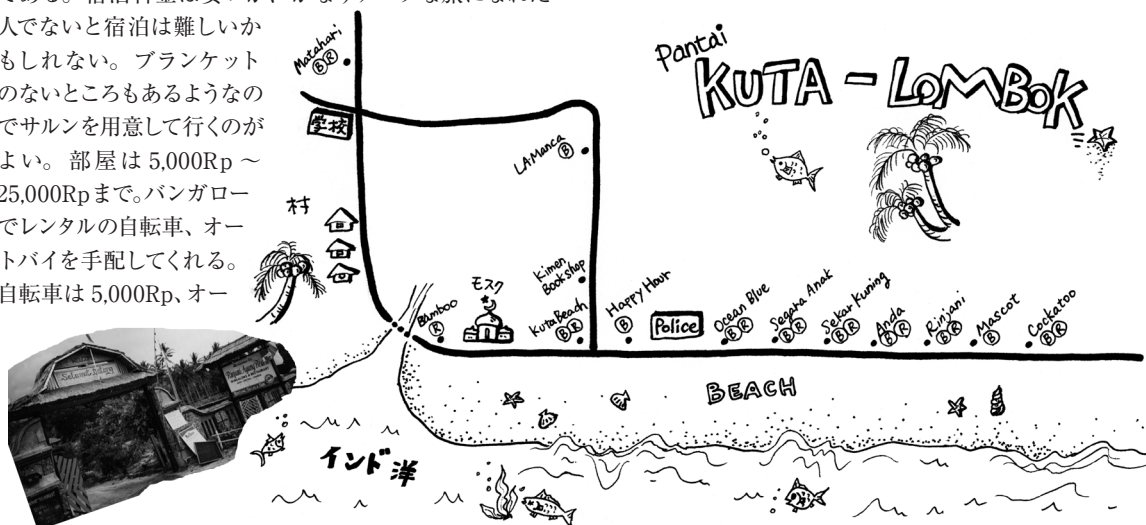
ロンボクのクタはリゾート地としてツーリストにも、最近名が知られてきたが、チャンディ・ダサヤロビナのようにプール付きの立派なホテルはまだない。かつてのギリ諸島がそうであったように荒地に簡素な建物が建っているだけである。宿泊料金は安い、かなりチープな旅になれた人でないと宿泊は難しいかもしれない。ブランケットのないところもあるのでサルンを用意して行くのがよい。部屋は5,000Rp～25,000Rpまで。バンガローでレンタルの自転車、オートバイを手配してくれる。自転車は5,000Rp、オー

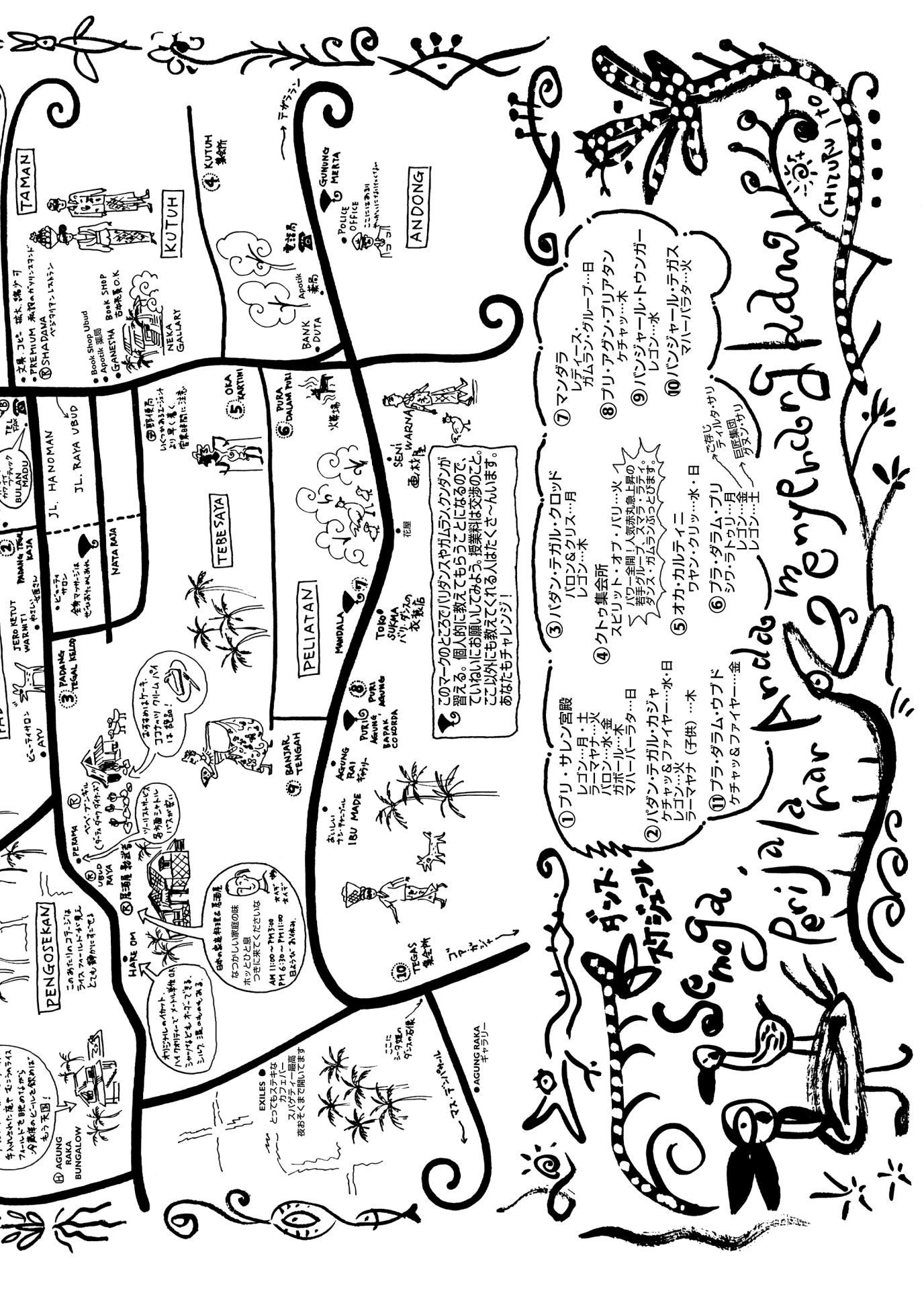
トバイは15,000Rp。オートバイの数が少ないためカレント料は高い。オートバイを借りて、村を一望できる丘に登ると、眼下に広がる風景は原始そのままを思わせる。7Km先のロンボク島の原住民ササク族の村を訪れるのもよい。クタの海岸は子供たちのパイナップルやマンゴ売りが、かなりしつこくつきまってくる。遠出して他の海岸へ行くのもよいが体長60cmほどもあるトカゲが道へ飛び出してくるので注意。クタからギリまでプラマのバスで(10,000Rp)足をのばしてみるのもよいかもしれない。

バリでバリ人がバリ語を話すように、ロンボクではササク族がササク語を話す。そして他の民族とはインドネシア語で会話する。私の名前は…のササク語はアラン・アクというそうだ。ササク語にもバリ語と同じように丁寧語と普通語があり、丁寧語はバリ語の丁寧語と似ているという。ロンボクの西、中央、東とで言葉が違うそうだ。

クタの海岸はすでにインドネシア政府に買い占められ、今建っている海岸沿いのバンガローはすべて西側に強制的に移動させられ、そのあとには、高級ホテルが建つリゾート計画があるそうです。ドイツ、スイス、日本などの外国資本のバンガローがすでに建築予定だそうです。新国際空港が1996年に着工され、2000年には開港予定となっています。そのころにはロンボク・クタも一大リゾート地になっていることでしょう。

ロンボクは緑が少なく土地が痩せているせいか、海以外に私を和ませてくれる風景が見当たらない。バリに上陸して「やっぱりバリがいいな～」と痛感させられる3泊4日の旅でした。





TAMAN

KUTUH

ANDONG

PELIATAN

PENGOSSEKAN

TEBESAYA

Senoja Perijahar Ando menyendiri kdwj

- ① 文庫 32c 本 読書 司
- ② PREMIUM 英和 英和 英和
- ③ SHADAWA 英和 英和 英和
- ④ Book Shop Ubud
- ⑤ Apotik 薬品
- ⑥ GANESHA Book SHOP
- ⑦ NEKA GALLERY

- ④ KUTUH 美術
- ⑤ Oka MARTINI
- ⑥ DUKUN PAU 火葬場
- ⑦ SENI WARJANA 画廊

- ① JERO NETUT WARMINTI
- ② PANGKATIKAJA
- ③ PADANG TEGAL KELOR
- ④ NATA RAJA
- ⑤ RAJA UBUD
- ⑥ HA NOMAN

- ⑦ PREMA
- ⑧ UBUD NATA
- ⑨ HARE OM
- ⑩ EXILES

- ① ASANG RAI
- ② PURI SUKMA
- ③ BAPAK ANING
- ④ TORO SUKMA
- ⑤ MANDALA

- ① AGUNG BAKA BUNGALOW
- ② HARE OM
- ③ HARE OM
- ④ HARE OM

- ① IBU MADE
- ② ASANG RAI
- ③ PURI SUKMA
- ④ BAPAK ANING
- ⑤ TORO SUKMA
- ⑥ MANDALA
- ⑦ SENI WARJANA
- ⑧ TORO SUKMA
- ⑨ MANDALA
- ⑩ TEGAS

- ① AGUNG BAKA BUNGALOW
- ② HARE OM
- ③ HARE OM
- ④ HARE OM

- ① IBU MADE
- ② ASANG RAI
- ③ PURI SUKMA
- ④ BAPAK ANING
- ⑤ TORO SUKMA
- ⑥ MANDALA
- ⑦ SENI WARJANA
- ⑧ TORO SUKMA
- ⑨ MANDALA
- ⑩ TEGAS

このマークのところでバリダンスやガムラン・タンダンが習える。個人的に教えてもらうことになるので、ぜひお願いしてみよう。授業料は交渉のこと。ここ以外にも教えてくれる人はたくさんいます。あなたもチャレンジ!

- ① プリ・サレン宮殿
ラゴン...月...土
ラノマヤチ...火
ハロン...水...金
ガボール...木
マハー・バラタ...日
- ② バタン・ツガル・カジャ
ケチャツ&フアイヤ...水・日
ラノマヤチ (子供) ...木
- ③ バタン・ツガル・クロッド
ハロン&クリス...月
レゴン...木
- ④ クトウ集会所
スピリット・オブ・バリ...火
ハワー・金剛! 人愛赤道上層の
若手グループ・アマラ・ラライ
ダンス・ガムランが広がります。
- ⑤ オカ・カルティニ
ウヤン・クリッ...水・日
- ⑥ プラ・タラム・プリ
シワラト...月
レゴン...金
レゴン...土
- ⑦ マンダラ
レイニス・
ガムラン・グループ...日
- ⑧ プリ・アグン・プリアタン
ケチャツ...木
- ⑨ バンジャール・トウンガー
レゴン...水
- ⑩ バンジャール・ツガス
マハー・バラタ...火

- ① プリ・サレン宮殿
ラゴン...月...土
ラノマヤチ...火
ハロン...水...金
ガボール...木
マハー・バラタ...日
- ② バタン・ツガル・カジャ
ケチャツ&フアイヤ...水・日
ラノマヤチ (子供) ...木
- ③ バタン・ツガル・クロッド
ハロン&クリス...月
レゴン...木
- ④ クトウ集会所
スピリット・オブ・バリ...火
ハワー・金剛! 人愛赤道上層の
若手グループ・アマラ・ラライ
ダンス・ガムランが広がります。
- ⑤ オカ・カルティニ
ウヤン・クリッ...水・日
- ⑥ プラ・タラム・ウブド
ケチャツ&フアイヤ...金

CHIZURU 100



第12章 アラックの神様

真っ暗闇。

あれ、俺どうしたんだっけ。そうだ。影武者でアラックを飲み過ぎて酔っぱらって潰れたんだ。かなりの時間寝込んでしまったらしい。うう、頭ががらがらする。み、水。ふと視線を上げるとテーブルの上にミネラルウォーターが置いてある。何とも粋なはからいじゃないか。板の間に長時間仰向けでいたので背中が痛い。今から帰るには早すぎるので、座布団をしいてもう一眠りだ。

従業員達が出社するのを待って、昨晚の支払いを済ませアノム宅に帰る。ようやくパリスをどう弾いたらいいのかわりかかって来たところだ。それに日本に戻るまで残り二日しかない。少しでも長時間練習がしたい。

戻ってみるとグンターとアノムのお父さんが中庭で雑談をしていた。

「お早うございます。」

「おはよう、ヒロシュ。昨日は遅かったですね。」

「いや、俺はかくかくしかしかで昨日は帰ってこなかったんだ。」

「おう、余り無理な飲み方は寿命を縮めますよ。」

「ん、わかっちゃいるけどな。好きなものはいかんともしがたい。」

さあ、やるぞ。おもむろにガンサの前に座り、マレットを振り降ろす。

ガンガンガンガン

ぐあああ、こめかみに響く。大魔神がスパイクを履いて頭の中でシコを踏んでいるみたいだ。音を聞きつけ、アノムが出て来た。グンターと何やら二言三言話していたかと思うと、笑いながらやって来て私の前に座った。

「ヘイ、ヒロシュ、昨晚はレストランで寝たんだって？」

「そ、そうなんだ。酷い目にあった。身体中が痛いよ。」

「昨日遅く帰ってきて、今朝早く出かけたのかと思っていたよ。」

「酔っぱらっちゃって帰れなくなったんだ。まだ頭がずきずきする。」

「その状態で帰って来なくて正解だったよ。犬に襲われるぞ。で、一体何を飲んでそうなったんだ？」

「最初にビントンを3本飲んでから、ブラムを1杯、その後のアラックを3杯かな。」

「アラックと他の酒を一緒に飲んじゃ駄目だ。バリ人だってそんな飲み方したら具合が悪くなるぞ。」

頭痛をこらえながら午前中いっぱい練習。昼食後、マウンテンバイクに乗り外出しようとしている所をアノムに呼び止められた。

「出かけるのか？」

「ああ、ジェゴグを見に行こうと思う。この近所にあるんだろ？」

南部
弘



ビントン
酒
楽

5

ジェゴグのパフォーマンスをウブドでやっていた訳ではない。ジェゴグとはガムランの一種であり、又はその楽器、アンサンブルの事でもある。

ここで一つ断っておかなければならないのは、ガムランとは、楽器群を指し、音楽をも指す事である。ガムランの楽器は一揃いでガムランとしての意味を成す。楽器は生まれた時に既にその性質が決定されており、演奏される音楽をも想定されているらしい。楽器の存在自体が音楽の存在と同義語なのである。楽器があればそこには音楽という精神性が宿っており、それを具現化する為の演奏者が必要であり、演奏される機会のない楽器は既に楽器として存在し続ける価値を失っている。ちょっと難しいが、ギター、ベース、ドラムのセットを見て、ロックだと言わない事を考えてもらえれば判り易いと思う。又、他の楽器群でガムラン音楽を再現したとしても、それがガムラン音楽の形態をしていてもガムランではない。と、別に研究した訳ではないが、私はこの様に考えている。

話は横道にそれたが、元に戻る様で更にそれる。ジェゴグとは同名の巨大な竹製の楽器を中心とした14台程の竹のガムランである。竹の節を抜いて並べ、鍵盤、兼共鳴体にしており、大きなものになると長さが3メートルにも達する。音は他の青銅製のガムランに比べ遥かに柔らかいが、人間の野性を呼び起こす様な危ない音楽だ。と、

ここまでではCDの解説書やガイドブック等で誰でも知っているし、私も受け売りをしているだけだ。では、何故に野性呼び起こす、簡単に言えばノリノリのイケイケになるのか。それはジェゴグの出す重低音に原因がある。人間は重低音を一定時間連続して聞かされると催眠状態に陥り、この状態で受動的な立場にたつと、上位自我に意思をコントロールされ易くなる。勿論、演奏を聞こうとしている人間はぐいぐいとめり込んで行ってしまい、楽曲のテンポが早ければ、当然ノリノリになるのだ。ヘビーメタルのコンサートで聴衆があれ程騒ぐのも同じ原理だ。ただでも血の気の多い若いガキ共が催眠状態に陥ったところで、彼等の上位自我であるステージ上のミュージシャンが、

「Hey,Fuck You! Kill Them,KiLL Them All!」

なんて無責任なアジェーションをぶちかましたら、暴動にならない方がおかしい。でかいオートバイ(つまり、排気音が重くて大きい)に乗ってる奴程、乱暴な運転をしがちなのも同じ理由からである。

又、よくヒットラーが自分の演説の前にワグナーの交響曲を演奏させたのは、重低音の催眠作用を知っていたからに他ならない。日本が誇る偉大なギタリスト、あのグループサウンズの創始者とも言うべきテケテケの寺内タケシ先生(冗談ではない。本当に世界的に有名なのである。)が旧ソ連時代にモスクワで公演をした時、開演前に人間の耳には聞こえない周波数の重低音をスピーカーから流し続け、何万人という大観衆を演奏開始と同時に総立ちにさせたのは、知る人ぞ知る事実である。

軌道修正。理屈はともかく、私はたまたま買ったジェゴグのCDがいたく気に入ってしまい、バリに来たら絶対に生で見ようと思っていた。しかし、バリ島西部のヌガラ地方に行かないと聞く事は出来ないらしいが、ヌガラはクタから50キロも離れており、行こうとしたら半日仕事になるし、観光化されていないらしく、行ったとしても必ず見られるとは限らない。たまにリゾートエリアのホテルのディナーショーで演る事もあると聞いていたので、クタにいる時に暇を見つけては情報収集をしていた。しかし演っていると聞いたホテルまで足を運んでも、今は契約していない、どこそで演っていると聞いた、と言う事で次に問い合わせると、うちではもう演っていない、どこそこに行ってみろ、と言われ、結局6件程を当たった所で最初に帰って来てしまい、このまま見れるかどうか判らないジェゴグを捜してクタに居続けるのは得策ではない、と諦めたのもウブドに来た理由の一つであった。ところが昨日、この近辺に楽器だけならある、という話を聞いたのだ。これは行かねばなるまい。

目的の場所はウブド中心部から北に3キロ程離れ、ライステラスが美しく広がる辺りにあるホテルを併設したカフェだ。ビンタンをオーダーする間もなく、カフェから50メートル程離れたホテルの敷地内にあるあずまやに威容を

さらす楽器群を発見。従業員に聞く。

「ジェゴグか?」

「そうだ。」

「ちょっと触ってみていいか?」

「どうぞ。」

一口もビンタンに口を付けないまま小走りに向かう。

あった。写真で見たのと殆ど変わらない。暫く使用されていないらしい。ところどころはっている蜘蛛の巣をかき分けながら奥に進む。無造作に置いてあるダンボール箱の中に入っているゴム製のマレットを持ち、一番奥に安置されているジェゴグに到達する。

これか。確かにでかい。深呼吸をし、マレットを振り降ろす。

『ドゥーン』

す、すげえ。まるで腹の中でダイナマイトが爆発したみたいだ。あずまやが周波数に共振してぶるぶる振動している。他の楽器も叩いてみる。素朴な乾いた音が心地良く響く。ちくしょー。次に来た時は絶対に何が何でも見てやるぞ。

目的を達成し、戻ってきた時にはアルコールは汗と共に完全に抜け、午後の練習に結構気合が入る。2時間程テープに合わせて練習し、ある程度の成果が得られて調子のいい所で終わりにする。明日は日本に帰らねばならないが、この後に及んでががつがつしても始まらないか。過ぎたるは及ばざるが如し。

随分世話になったお礼を述べるついでにビールを飲み影武者に行く。(まだ懲りんのかお前は!) 今晚、すき焼きパーティーをやるからよかったらどう、という誘いを断腸の思いで辞退。アユのバリ風手料理で私の為に送別パーティーを催してくれる事になっているのだ。

アユの作ったバリ風のローストダックは、バリで一番美味しいとされるレストランのスペシャルよりも美味しかった。(お世辞ではない。) 辛すぎない程度のスパイスがきいていて、身も柔らかく骨からすると剥がれてくる。ソースにも旨みが充分染みだしているにもかかわらず、肉の味は落ちていない。口に入れた時に広がる豊かな香り。絶品である。ほほほほほ。笑いが出してしまう位の美味しさである。ほほほほほ。思わずご飯を2回もおかわりして、最後にはソースをかけて食べてしまった程だ。

食後、談笑していると、グンターが何かを持って来た。

「つまらない物ですが、私の気持ちだと思って受け取って下さい。この中に住んでいる神様がヒロシユを守ってくれると思いますよ。」

お寺の祠の形をしたアラックのミニチュアボトルだ。極上のセンス・オブ・ヒューモア。上品なだけでは無い、洒落のセンスも有るとてもいい奴なのだ。俺ときたら、

「いやあ、グンター、なんて言ったらいいのか、俺にな

んて言えるのか、この気持ちを英語で巧く表現できないなんて、今程ちゃんと英語の勉強をしていれば良かったって思った事はないよ。えーと、うまく表現出来ないけど、とても嬉しいよ。有り難う。いやあ、なんつーかなんつーか…」

明日は日本に帰らなければならない。最後の夜くらいはおとなしくしていよう。アラクの神様を神棚と決めたテーブルの上に置き、静かに最後の夜を過ごした。

終章 椰子の嘆き

いつもと変わらない朝だ。早起きのグンターはテラスで本を読んでいる。朝食を摂り、煙草を喫ってからマンデイで身体を清め、練習場に向かう。

ガンサに向かい、精神を集中させる為に深呼吸。軽くフレーズの一つを叩く。

音を聞きつけ、アノムが出て来た。

「お早う、ヒロシュ。」

「お早う、アノム。」

「今日で最後だな。」

「ああ。卒業試験を受けさせてくれ。」

「よし、見てやる。」

テープをかける。ドラムのイントロが始まる。いいか、入る場所を間違えなよ、

ドゥンパッ、ドゥンパッ、ドゥルルルルルンパッ、1、2、3、4、ここだっ、

全身全霊をこめて、且つ細心の注意を払いながら演奏をする。血中のアドレナリンの濃度が高くなってるのが自分でも分かる。しかし不思議な事に頭は冷静でいられる。自分が出そうとする音が天から降って来る。自分の存在が音楽の存在に限りなく接近しつつある。

最後の音を叩き終える。アノムの拍手。

「バグース！ヒロシュ、お前はパリスをものにした。」

嬉しい。どうやら合格点を頂けた様だ。

「アノム、俺はいい生徒じゃなかった事を詫びなければならぬ。」

「そんな事は無い。お前は熱心に練習したし、のみ込みも早かった。」

「そう言ってくれて嬉しいよ。」

「今日はこれからどうするつもりなんだ？」

「まだガールフレンドにお土産を買ってないんだ。買い物しようかと思う。」

「車で外出する用事があるんだ。買い物には俺とアユが付き合うから一緒に行こう。日本人が一番高い値段で買わされるからな。」

「しかし、空港に行くシャトル・バスが5時に出るんだ。」

「シャトル・バス？水臭い事言うな。俺が送って行く。」

「いいのか？」

「ああ。何時のフライトなんだ？」

「9時45分だ。」

「それなら7時半にここを出れば充分間に合う。ゆっくりしていけ。」

と言う言葉に甘え、(思い起こしてみれば、人に甘えっぱなしだった。) プリアタンの間屋で銀細工、スカワティーのマーケットで民俗風のジャケットと、同じ柄のバッグを買う。アノムの用事とは、ダンスで使う面を捜す事だったらしい。何件かの店を見たが気に入ったのは見つからなかった様だ。

一旦アノム宅に戻り、マウンテン・バイクを返す為に町に出る。いるかな、あいつら。いたっ！ブロックだ！

「へーい、ヒロッシュ、ダブル・キーウィーか？」

「そうしたいんだが、今日帰らなくちゃいけないんだ。」

「え？日本に帰るのか？」

「ああ、でも又来るからな。」

「いつ戻って来るんだ？」

「んー、良く分からないけど、来年中には来たいと思っている。」

「そうか。じゃあ、すぐだな。」

「ああ、すぐだ。」

「それなら、さよならを言う必要はないな。」

「ああ。一つお願いがあるんだけどな。」

「何だ？」

「ダブル・キーウィーを捜したんだが見つからん。これで二本買って来てくれないか、一本は俺の、もう一本はお前達のだ。」

アノム宅に戻る途中でしきりにクラクションを鳴らす車がいる。見るとアノム一家達が乗っていた。「今から葬式に行くんだが一緒に行かないか？」

先日ギャニャールに弔問にいった家の故人が、茶毘に附されるらしい。

「でも、この恰好じゃあ。サロンすら巻いてないし。」

「別に問題無い。乗れよ。」

故人の家は観光客も含め、気を付けて歩かないと誰かの足を踏んでしまいそうな程沢山の人がいた。日本の葬式で、故人の知り合いでもない外国人が、ショートパンツにTシャツの超軽装でわらわら押しかけたら、それがマイケル・ジャクソンであろうがアーノルド・シュワルツェネッガーであろうがインディ・ジョーンズであろうが、間違いなくたたきだされるどころだが、大規模な葬式が行われる時は観光客のツアーが組まれる事もある程、バリの葬式はお祭りに近い乗りがあるので。火葬場まで行く葬列は、ガムランの鳴り物入りの大パレードとなり、その規模の大きさが故人の社会的地位を象徴するらしい。盛大に故人を天界に送り出

す事がよいとされ、悲しみは災いをもたらすとされているらしい。故に、外部の不法な人間にもおおらかな対応をしているんじゃないかな。

どうやら我々はVIP扱いらしく、お茶とお菓子を出してくれる。勿論、両方ともむせかえる程甘い。普段なら遠慮させて頂くところだが、失礼にならない様に有り難く頂戴させて頂く。ぐ、喉が痛い。

亡骸が棺桶から運び出され、移動用の柩に移される。門の前でとんでもなく巨大な神輿のようなやぐらに乗せられパレードが始まった。高さ7、8メートルはあろうかというやぐらを4、50人の男が担いで通りを練り歩く。やぐらの最上部には人は座っており、大きく揺れる度に振り落とされそうになる。時折、バランスを崩し左右に蛇行する。気を付けないと新しい死人が出そう。私もすんでのところ危うく潰されそうになる。凄い活気である。殆ど、狂騒状態だ。まるで原色に彩られた飛騨の高山の祭りのようだ。パラガンジュールが後を続く。途中、幾つもの葬列が合流し、道には溢れんばかりの人、人、人、人。交通は完全に麻痺しているが文句を言う奴はいない。

火葬場となる広場に次々と葬列が到着する。まだあちこちに前回の火葬の跡らしき痕跡が見受けられる。遺体の数は8体か9体。参列者から見物人も物凄い人出である。その数ざっと2000位か。道には屋台も出て、ポリバケツにビンタンやファンタを入れておばさん達が売り歩く。

亡骸が火葬用のやぐらに移されたので、通りを隔てた空地に移動し、手頃な石に腰を下ろして一服する。多くの観光客の目的はパレードよりも公開火葬にある様だが、人間の身体が炎に包まれ崩れ落ちていく過程をビールを飲みながら鑑賞する様な下品な趣味は私にはない。

あれ、俺が腰かけてる石、ずいぶん人工的な細工がしてあるようだが、こりゃ何だ？うわっ！墓石じゃねえか南無阿弥陀仏（混乱してるな）

慌てて立ち上がりあたりを見回すと、どうやら墓地跡だったらしく、そこかしこに埋葬の跡が見受けられる。遺骨は灰にして川か海に流す筈なので、察するにオランダ植民地時代の外国人の墓ではないだろうか。バリ人の貧しい家庭では葬式をあげられるお金ができるまで一時的に土葬する事もあるとは聞いたが、墓石はみんな相当に古い物だったし、墓碑銘にはアルファベット文字が刻まれていた様だ。それに2メートル程の長方形の枠組みがあるという事は、埋葬されているのが誰であろうと、少なくとも下には未だに遺体があるという事だ。

緑の草の上で生まれ、青い空に登って行くアンクルの物悲しい響き。倒れかけた椰子の木の嘆き声。輪

廻の輪のほんの一時、人間として生まれ、泣いて笑って、そして死んでいく私達。私が生まれる前には私はないのに、私が死んだ後には私の身体が残る。抗う事の出来ない事実が此処にあるのに、私の求める真理は何処にあるのだ？

もう少しだ。もう少しで何かが判るんだが、その何かが何なのか今は見当もつかない。しかし、私にとってとても重要な事である事は間違いない筈だ。暫くの間、ぼーっとして何かを待っていたが、遂に判らなかつた。たった2週間と少しバりにいた程度でこんな事を考える様になるとは。バりが、「神々の住む島」だなんて言われている事なんか私には関係ないが、私の何かが覚醒しようとしている事は事実だ。もう少し長期間いたら私は変わるのだろうか？しかし、何がどう変わるのだろうか？何かが変わる事を期待しているとしたら、今の自分に私は満足していないのだろうか？判らない。でも、私が忘れていた何かを取り戻せる土地なのかもしれない。私はそれを求めているのだろうか？判らない。いかん。この答えは無理に出す性質の物ではない。自然と判るまで待つしかないだろう。

部屋に戻り、気の重い荷作りをしていたらアノムがやって来た。

「まだ荷物と格闘してるか？」

「ああ、もうすぐだ。」

「又、来い。」

「勿論、そのつもりだ。」

「来る日が決まったら手紙を寄越せ。俺が空港まで迎えに行く。」

「ん。有り難う。」

アノムのお父さんとお婆ちゃんに丁重に礼を言い、車に乗り込む。アユはお洒落をしてくれている。二人の子供も一緒だ。上の子はリュックサックを背負っている。

「一緒に飛行機に乗るんだとさ。」

車が出発してしまった。ラジオから流れるデンバサール・ムーン。少しだけ開けた窓ガラスが風を切る音。空港までの1時間、私は自問自答する。

帰りたくないか？ああ。バりにいたいのか？そう。日本には帰りたくないのか？日本だから嫌だって訳じゃない。じゃあ、もしバリ人が、「あんな国に帰ったって、どうせいい事ないんだろ？ここにいろよ。」と言ったらどう思う？日本人の俺が日本を嫌うのはいい。それは近親憎悪かもしれないからだ。しかし、日本に住んだ事の無い奴が俺に日本の悪口を言うのは許さん。じゃあ、他に理由があるのか？ああ、ガムランの勉強が充分じゃない。どのくらい勉強したら充分なんだ？勉強に終わりは無い。そうか、じゃあ、ここで死ぬまでガムランの勉強をするのか？それが出来れば幸せだ

が、そういう訳にはいかないだろうな。それが判っているのだったら、今回はおとなしく帰る事だな。そうしなければ、観光客のお前をちやほやしてくれるバリの居心地がいいから帰りたくないだけと言われても反論出来まい？

判った。今回はおとなしく帰るよ。でもな、ふん！
また来てやる！

空港に着いてしまった。いよいよお別れだ。
「色々世話になった。どうも有り難う。」
「じゃあ、元気で。」
「さようなら。おっと、忘れてた。スマラ・ラティーに
神の御加護があります様に。」

ボーナス・トラック (ジャンキー再び)

見るからにミュージシャン崩れの私を乗せたガルーダ
872 便は、ほぼ定刻に成田に到着した。気温差に戸惑いながらもバゲージクレームで荷物をピックアップし、税関の免税カウンターに並ぶ。

前に並んでいる新婚と税関の係員のやりとりを見る。

「申告する物はありませんか。」

「ありません。」

「どうぞ。」

荷物をひっくりかえされるもんだと思っていたが、なーんだ、随分と簡単なもんだな。あ、私の番だ。

「申告する物はありませんか。」

「ありません。」

「本当にありませんか？」

何だか探る様な目つきでこっちを見てる。

「ない、と思いますけどね。」

「うーん。」

「な、なんすか？」

「例えば、日本に持ち来めない様な物は持って来ていませんか？」

「え、無い……と思いますけど。」

「本当に？」

「ええ。」

「うーん……(じろじろ見ながら10秒程)……じゃあ、いいです。」

何だか釈然としないな。ふと、目の前の掲示板を見る。
『人生を破滅に導く白い粉。年末特別警戒体制実施中。』

- おわり -

猫がイキをなめている時。
お平がと

このポーズがしばらくおとします。



これ なあ〜んだ?
Apa itu?

バリ島の交通ルールは、情け無用の生き残りゲームである。それでもいちおう交通標識はある。バリ島の西にあるヌガラ街へ行く途中で見かけた道路標識。このふたつの山は一体何を意味するのか？ これが今回の APA ITU? である。



ヒント=「この先大きなオッパイがあります！注意して見てください！」なあ〜てそんなわけはないでしょう。

解答=これは「この先ガタガタ道につき要注意!!」の標識です。

数年前のヌガラへの道は、UBUDから4時間の腸捻転促進道路の遠い遠いみちのりでした。今では、ヌガラ方面も道路が舗装されて2時間30分で行くことができる、快適なドライブコースに変身しました。しかし、道路が快適に舗装された今でも、この標識は残っています。こんなところがインドネシアのよいところでもあり悪いところでもあるようだ。道添いの川でマンディする女性を見て、やっぱりこの標識は「この先オッパイがあります！」なんて勘違いしないでください。

右の写真はロンボクで見かけた標識。私はてっきり「天体観測所あります」だと思ってしまいました、がどうやらこれは「モスクあります」の標識だったようです。



Peliharalah Lingkungan UBUD

UBUD の環境を考える

匿名希望人

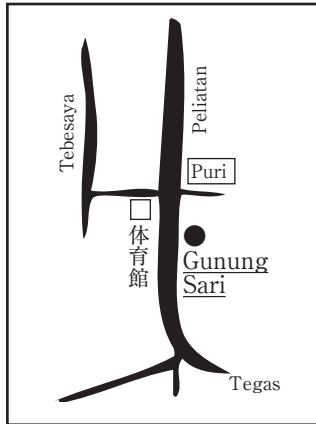


三年ぶりの UBUD 訪問である。UBUD はいつ来ても心地よいところである。たまにしか訪れない私がこんなことを言うのは失礼とは思いますが、言わずにおれないので一言。それは、UBUD にクーラー付きのホテルがあることである。需要と供給の関係だろう、泊まる客がいるから、クーラー付きのホテルがある。貧乏人のひがみではないが、ここに来てまで、クーラー付きのホテルとはなにごとかと怒りが沸騰してしまう。日中は確かに暑い、それはここは南国だからしかたがないことである。暑い日中は昼寝かプールでひと泳ぎをお薦めする。そして夜は一変して涼しく、芸能を観たり、ジャラン・ジャランするのに最適である。クーラーなしでも充分過ごせるところだ。観光客がクーラーを要望すれば、ホテル側もクーラーを用意してしまう。そうしてクーラー設備のあるホテルが増えてしまう。そうなってしまえば、日本のように部屋の中は涼しいが、一歩外へ出れば暑くてしかたがない。体によくないことを知りながらつつい部屋では、つけっぱなしにしてしまう。夜になればクーラーの放熱が街中に充満し熱帯夜と化してしまう。そんな日本の二の舞にならないように、少し暑くても、少しは我慢しよう。いつまでも、心地よい UBUD を残すために提案です。クーラーを使わない、クーラーのあるホテルに泊まらないようにしましょう。

Toko ◇ BEST 店

Gunung Sari

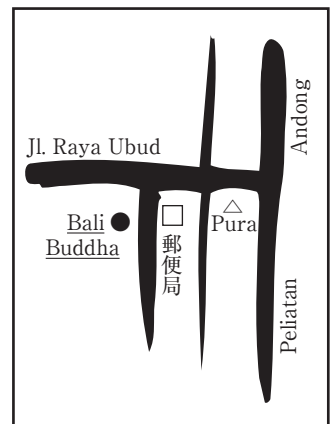
店ですが、私達外国人には定価のシールが貼ってあるということで、安心して買物のできる店です。洗剤や菓子類はもちろん、ちょっとした薬や裁縫道具など身の回り品が揃っていて、イザという時に便利。そしてウパチャラに持っていく手土産各種、ティーカップ・セット、グラス・セットなどがいつも山のように積んであり、嬉しいことにちゃんと包装もしてくれます。さらに一押しのお薦めは正装コーナーです。クバヤの生地はどれも質が良く、着分2万~4万ルピアとお手頃価格。ソケット(金糸)のサルン、スレندان、そして男性用のシルクのサブブなども良心的な値段段です。アクセサリ各種、金のかんざし、ちょっとハデなピンヒールのサンダルなども、ここで全部揃ってしまいます。お祝いのプレゼントにも最適ですが、自分のための正装を揃えるにも Bagus な店です。ぜひ利用したい雑貨屋さんです。



Warung ◇ 味な店

BALI BUDDHA

我々ツーリストもたいへんお世話になっている UBUD の郵便局。その真向いにバリ・ブッダはあります。壁やテントがカラフルでどことなくネパールかチベットをイメージします。1階にはパンの並んだガラス・ケースと小さなカウンターがあり、それだけでもタダモノではなさそうなカフェということがわかります。バリ・ブッダで食べられるものは、Bageley というどっしりした、おいしいパンに、クリーム・チーズ (バジルやスモーク・サーモンなど種類が豊富) のスプレッドをぬったもの、そしてサラダや小さなパイとケーキ。2階で郵便局に出入りする人々をウオッチングしながら、のんびり食べられます。一階の店頭には、ホーム・メイドのオリジナル・フードが並んでいて、特にハンド・メイドのフルーツ・ジャム (すごくたくさんの種類!) 各種ビクルス、ドライ・フルーツなどはおもやげにもいい。UBUD エリア内の無料デリバリー、ジャムのびんのリサイクルなど、小さいカフェですががんばっています。



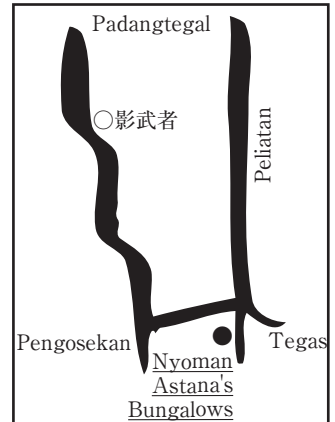
JL:Jembawan.Padangtegal.Ubud.Bali TELP:976324

Tokoz Sayang + お店紹介

Nyoman Astana's Bungalows

小境和恵

みなさんの中で、ボト..ボト..ボト..とお湯が流れ、コレって、まあホットシャワーには間違いないんだけど...。なんて宿に泊まり、一泊 Rp20000 も払った経験をお持ちの方いらっしゃいませんか？そんな悲しい過去のある方に、是非ともご紹介したいのが「NYOMAN ASTANA'S Bungalows」。このシャワーからは”これでもか！”というほどバク発的にお湯が吹き出し、ひと度マンディすれば気分爽快お約束。B a p a k、I b u、A n a k 2 といった家族経営で、みんな余分な話しかけは全くと言っていいほどなく、自分の時間確保もバッチリ。それぞれ異なった景観の部屋が全部で8室、涙モノのホットシャワーと朝食付きで Rp10000 ~ という激安価格（交渉しただいでもっと安くなるらしい）が何ともうれしい限り。とっても清潔でステキなバンガロー、プールも付いてて景色もいい。っていうような快適さは無いが、のんびり静かに過ごしたい長期滞在の人におすすめだ。



ADDRESS:Dusun Kala,Peliatan Ubud-Gianyar-Bali
Phone:(0361)975661

旅人一声 Pesan & Kesan

学生その式

一年ぶりの UBUD 滞在である。今回の旅はどうか就職も決まって、学生生活最後の旅「卒業旅行」である。人に人生という雑記帳があるとすれば、私の今回の UBUD 滞在はもっともページ数が多いことだろう。UBUD は私にいくつもの実に楽しい思い出を作ってくれた。次に UBUD を訪れる時は、私はもう社会人になっている。その時には、今までの学生気分で味わった感動とは違っているのだろうか。学生と社会人という、得体の知れないギャップを実感するのだろうか。今までの私は、私らしく生きてきたつもりである。そして、これからは私は変わらないと信じている。社会の荒波なるものに私も流されてしまうのだろうか。次回の UBUD 滞在が私にとって、どんな旅になるのかを今から楽しみにして、今回の旅を終えることにする。

その他のニュース

■フライド・チキン、味の饗宴？

リピーターのO氏はサヌールにあるスーパー・マーケット、グラエル・デワタで先天性都会的症候群に陥ってしまい、思わずケンタッキー・フライド・チキンに飛び込んだ。カウンターで注文に迷っていると、店員に5,000Rpのセットをすすめられた。フライド・チキンが二つとコーラにナシ・プティ（ご飯）のセットである。フライド・チキンにナシ・プティ？一瞬戸惑ったそうがここはインドネシア、こういう組合せがあっても不思議ではない、日本にだってフライド・チキンに味噌汁のセットがある、と覚悟を決めて注文した。フライド・チキンは口の中でパサパサとする。そしてナシ・プティはネチョネチョ。これはコーラを飲まなくては食べられない。パサパサ、ネチョネチョ、ゴックンの味の饗宴。三つの味が絶妙に絡み合わずになんとも言えない味だったそうです。周りを見渡すと、お客はすべてフライド・チキンにナシ・プティを美味しくそうに食べている。しかも手で!?ここは都会の象徴的存在であるケンタッキーではなかったか？バリについては相当くわしいと自負していたO氏は「俺はまだ未熟者だ」と反省したそうだ。

■プリ・ルキサン美術館がリニューアルされた!!

数年前、古ぼけた美術館は荒れ果てた庭の奥にあり、薄暗い館には若手のアーティストが精彩のない顔をして受け付けをしていた。そして、時には物売りのように絵を売ることもあった。そんなわけで、あまり入場料を払ってまで見る気がしなかったプリ・ルキサン美術館がリニューアルされた。美術館はコレクション館が二つとイベント館の三棟がある。コレクションはバリ絵画で年代別、スタイル別に整理されていて観賞しやす

い。イベント館では企画展示が頻繁に催されているようだ。そしておすすめは、日曜日の来館。午前10:30から中庭で上演される子供達のバロン劇は、素朴でユーモアがあってなごやかな雰囲気である。入館料は一人2,000Rp、バロン劇は寄付ということです。南国の陽射しの中でバロン劇を見たあとは、整備された中庭を散策し、ゆったり気分でもバリ絵画を観賞するがバグースです。

■クリンチちゃんの妹デビュー！

毎週日曜日、あちこちと頻繁に会場が変更し、少し可哀相なプリアタンのレディスガムラン、ムカール・サリを久しぶりに覗いてみました。お目当ての可愛かった踊り子たちは今や立派に成長しています。クリンチ・ダンスで一番前で一際目立って踊っていた、通称クリンチちゃんは、テヌン（機織り）を踊っています。そして今、クリンチ・ダンスの一番前で一際目立つのが、初代クリンチちゃんの妹です。キジャンの踊りの真ん中で、背が一番低い元気はつらつで人一倍飛び跳ねていた踊り子は、他のメンバーは全員変わり、彼女が一番大きい踊り子になっていました。しかし、飛び跳ね方は相変わらず人一倍でした。メンバーの一部が入れ替わりレベルも一段と高くなっています。時代の変わるのは早いもの、見逃せないグループの一つです。



Illustr: Chicuru.J

UBUDより。

ここ最近報告



みほさん いかがお過ごしですか？ 日本はそろそろ初夏ですね。Baliではニュピを過ぎてからというものの、すっかり乾期にひりわた。青い空はスコーンと高く、カラリと晴れた日が続いています。

今、Pura Besakihでは、エカ・ダセル・ドラに次ぐ大祭、EKA BHUWANA (エカ・ブワナ)が行われています。やはり百年くらいの周期でめぐる大規模な儀礼でそうです。

準備は3ヶ月ほど前から始まって

いましたが、一般のムスポ(お祈り)はニユピ前日から。以来ニユピが明けから毎日、バリ中からどくどくと参拝のバリ人が訪れています。UBUDでもバンジャールグトに大型バスをチャーターしています。くわしいことは次回の号でみほさんにご報告したいと思います。ほんのりか下↓のように、身の回りがゴタゴタしているUBUD本部ですが、今までと同様、がんばりまわすヨロピク!

【年間購読申込み方法】

エアメールで、その旨手紙をください。宛先は「影の出版会：伊藤」、住所は巻末のBALI本部です。料金は、4,000円。おりにかえし申込み用紙と送金方法をお知らせします。また、お急ぎの方は、郵便振替用紙の通信欄に年間購読希望と書いて送金してください。振替先口座：00190-6-573859「影の出版会」です。

うぶっな人々 その13 ほりり

今回は、ほりりさんに「ヤラレター」ってかんじ...トホホ

流行先端事情

ラワールでやせる

自然からだが引き締まるから不思議。ちよつとした作り方の工夫で精力増強から便秘解消効果も発揮する御馳走

雨季を乗り切る洗濯術

●お気に入りのクバヤがいつでも着られる

●私だけだと信じていた

これが噂のジゴロテクニク

●翻弄された三人の日本女性の告白

名古屋のK恵氏(匿名希望)

借金地獄を笑い飛ばす

「ほんでも土地だけは買ったんだわ...」

取材 とんとん拍子で重なる密会。カメラマンK氏のデートとは

密着 ■ダメもとのアタックが意外な展開 ■足が地に着いていない状態のK氏

今だから語る。本当にI氏の告白! 影武者 だった。

「僕の自業自得だわね」

ゆみ 33

交際2年

豪華な葬式費用の一覧表

スマラ・ラティの日本公演

ナスを食べると萎えるか?

オダランに見る化粧技術

レゴンを手抜きで踊る方法

あぁ、バクンが食いたい!!

この体位で男を虜にする

しゃれたサンダルの選び方

驚天動地 スクープ!!

実はまだ独身だった

■あのバトゥプランのバロンと電撃スピード挙式

■前号での不可解な吐き気の原因は体??

■謎に包まれるニユピの夜、独占内幕取材

■国籍を移す決断! 浮かれる毎日の一部始終!

結婚

浮上

肌アレからストレスまで **効く!!**

手作り

ジャム

作り方の極意

女性うぶっ

隔月刊 4月29日号

徹底説明 姑もうなるサジェンの小粋な作り方

Studio

Name	Point	Address / Tel.	
Semara Ratih	あのスマララティのリーダー、アノムそしてアユがコーチしてくれる。宿泊施設有り。	Jl. Kajeng 25, Ubud Tel. 96277	ダンス ミュージック
Puri Agung	プリアタンの王宮でも習えるのだ！宿泊施設有り。	Peliatan	ダンス ミュージック
Mandara	御存知、ティルタサリのご本家。宿泊施設有り。	Peliatan	ダンス ミュージック
Gunung Merta	日本語のできるバノ・ワタバグース氏が相談にものってくれる。宿泊施設有り。	Andon Tel. 975463	ダンス ミュージック
Nata Raja	STSI芸術大学出身のワヤン氏は、マルチティーチャー。	Jl. Sugriwa No.20, Ubud	ダンス ミュージック
Wayan Karta	ガイドのカクタ氏の家族はダンサー・ミュージシャンが粒ぞろい特にゲンマニちゃんは男性ファンのマドンナです。教え方も上手。	Jl. Suweta, No.16, Ubud	ダンス ミュージック
Sanggar Centil Cili	STSI出身のメンバーを中心に、スタッフもやる気満々。気軽に習えます。	Pengosekan, Ubud	ダンス ワヤンウリッ
Dewa Berata	あのスマララティのクンダム(名物男)奏者。STSI出身。お父さんから、4人の兄弟みんな音楽一家。	Pengosekan, Ubud	ミュージック
Gusti Sana	Sana氏独特のカエル百態、ちょっとエッチなタッチ。とてもやさしい先生。	Pengosekan, Ubud	ペインティング
Budiana	D. ボウイも持っている、ブディアナ先生の摩訶不思議な、エロティックなスゴイ絵あなたも描けます。	Jl. Hanoman	ペインティング
Lantir	テガスのグスマンベジャティの巨匠、ノ・ランティール氏が秘伝の技を伝えます。	Br. Tegas Kanginan No.53	ミュージック
Rino	一度観たら忘れられないあのTegasのケチャのワイルドマン/ノさんが教えてくれますよ。ペンパリス、Bagusです。	Br. Tegas Kanginan No.50	ダンス
Komang Bintang Sarini	プリアレンの花形ダンサーのひとり。とてもいいに教えてくれる。練習場完備。	Jl. Setra 6 Tel. 974645	ダンス
Mugni & Tutuni	上のコマペンタンさんの妹、マグニとトゥトゥニ。プリアレンの若手スター、とっても美人。	Jl. Suweta 7	ダンス
Puri Saren	Ubudの王宮に泊まって踊りを習っちゃおう先生いろいろ紹介してくれます。毎晩敷地内でダンスも観れちゃう。宿泊施設とってもバグース。	Puri Saren, Ubud	ダンス

アムゴンバン

Pengumuman

■ヌス・タリアン OPEN!

福岡のインドネシアンレストラン (といってもほとんどバリスタイルですが) NUSA TARIAN (踊る島) をオープンしました。レストランの他、グッズ販売・ダンスレッスン、語学教室などなんでもありです。ぜひ一度どうぞ！
また、ダンス&音楽の帰国子女の方、福岡でショー&レクチャーをひらいていただけませんか？

連絡先： 〒 810 福岡市中央区今泉2丁目 4-35-4F NUSA TARIAN Co.Ltd
Tel.092-712-6043 / Fax.092-712-5355

■BALI 舞踏とガムラン講座

- BALI 舞踏
Bali 人による初歩からのレッスンです。女性舞踏、男性舞踏どちらも可能。
- BALI ガムラン
個人あるいは数人のグループレッスンです。音楽経験のない方でも大丈夫。

お問い合わせ：06-931-6157 / 小林

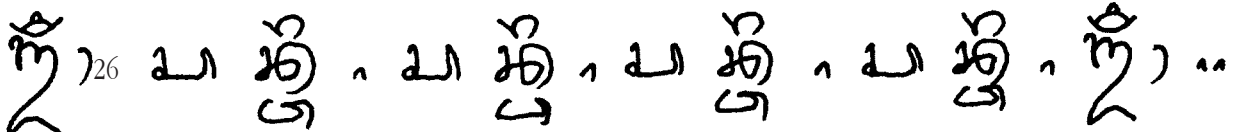
■PURNAMA SARI

プルナマ・サリ/バリ舞踏教室が入門クラス開講。
バリ島の好きなあなた、ダンスの好きなあなた、エスニック好きのあなた、何か習い事を始めたいと思っているあなた、バリ舞踏を始めませんか？基本から丁寧に教えます。

お問い合わせ：06-864-0767 / 田中千晶

CD-ROM MAGAZINE "pod" の最新号 (vol.8) は、バリ特集。ウブドゥのエステ・サロン "NUR SALON" や "メディテーション ショップ"、ウブドゥのアーティストなども紹介されていてウブドゥ病に罹ったときには速効力あり。とりあえずのカンフル剤に超オススメです。特にマジカルツアー・バリは、よくできているインタラクティブストーリーで、すごく楽しめます。ちなみに私は、ブラックマジックをかけられて、目が真っ赤になったのを、バリアンに治してもらった。(ゲームでの話) 皆様、お試し楽しみあれ！
あいこ

Katsumi Inoue / e-mail : QZM00634 @ niftyserve.or.jp





Terima Kasih



発行人：伊藤博史

編集：伊藤博史 / 佐藤由美 / えりり / 堀 祐一

エディトリアルデザイン：菅原恵利子

写真：堀 祐一 / 伊藤博史

カバーイラスト：鈴 有美子

極楽通信「UBUD」Vol. 13

1996年4月15日発行

発行・販売：影の出版会

Hiroshi Ito: d/a Pak Wayan Karta Wigraha
Jl. Suweta No.16, Ubud. Bali,
80571, Indonesia tel.(0361)96134

©1996 影の出版会 禁無断掲載





影の出版会事務局

- BALI 本部 Hiroshi Ito: d/a Pak Wayan Karta Wigraha Jl.Suweta No.16,
Ubud. Bali, 80571, Indonesia tel.(0361)96134
- 日本連絡先 〒 106 東京都港区麻布台 3-4-4 Iikura Comfy Homes B-102
ポトマック株式会社内, tel.03(3583)0801 fax.03(3583)0803